

## ◆今期間のポイント

## ＜主要じょう乱の概要＞

- 30日は、高気圧が日本の東へ移動する。気圧の谷が日本海北部に進む。
- 31日は、高気圧は日本のはるか東へ移動し、日本付近は気圧の谷になる。
- 11月1日は、低気圧が発達しながら北日本を北東に進む。
- 2日は、低気圧はカムチャッカ半島付近で更に発達する。大陸の高気圧が黄海に移動し、日本付近は西高東低の気圧配置になる。
- 3日は、高気圧が本州付近に移動する。

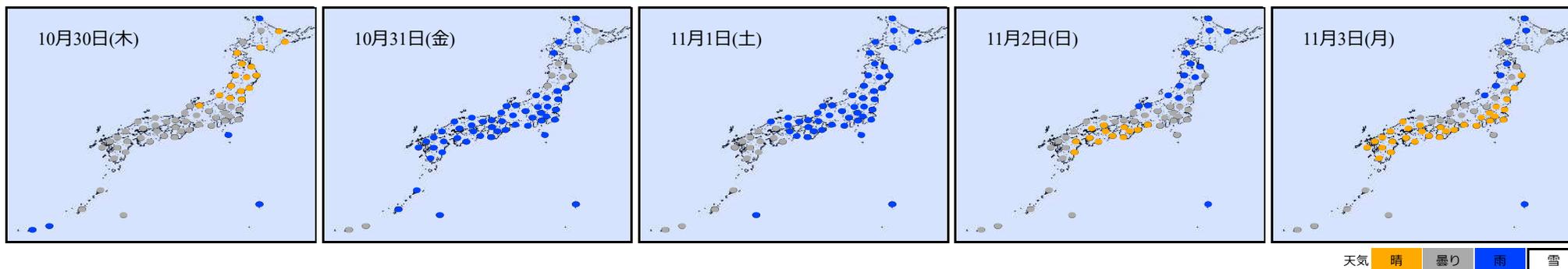
## ＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 31日は、暖かく湿った空気が東・西日本太平洋側に流れ込み、11月1日は低気圧が発達しながら北日本付近を北東に進む見込み。このため、西日本は31日に、東日本と北日本では31日から1日頃にかけて、大雨や荒れた天気となり、低気圧の発達の程度等によっては大荒れや大しけ、警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

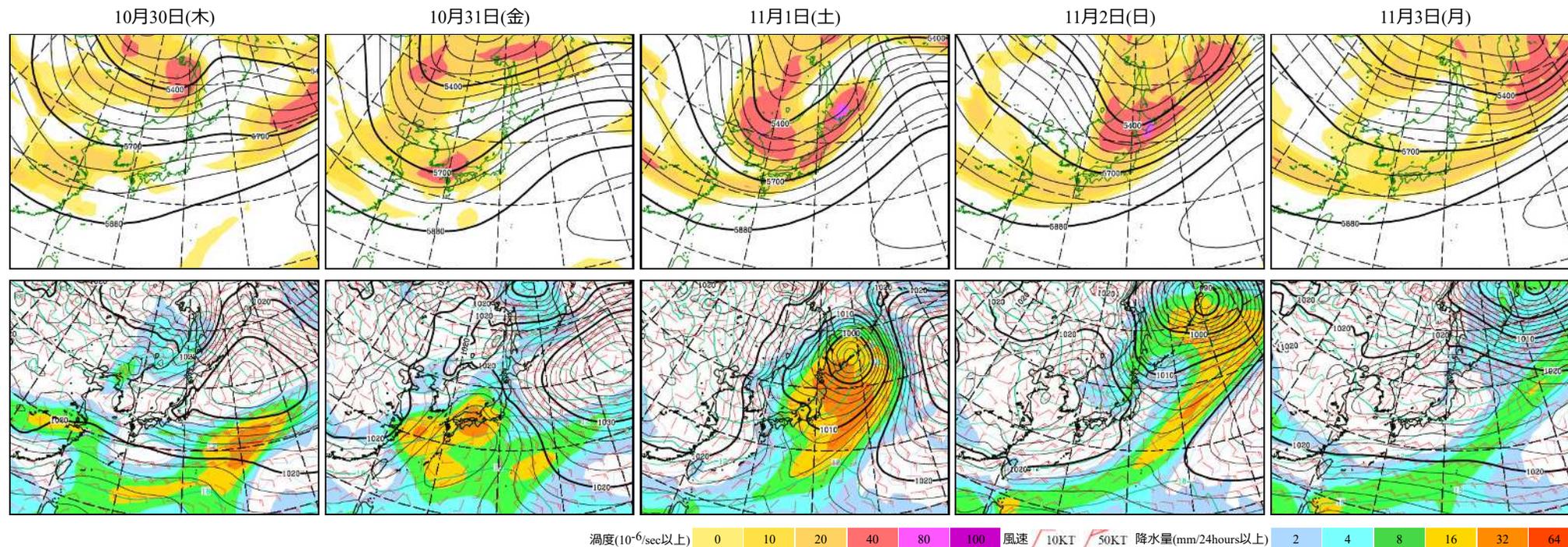
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

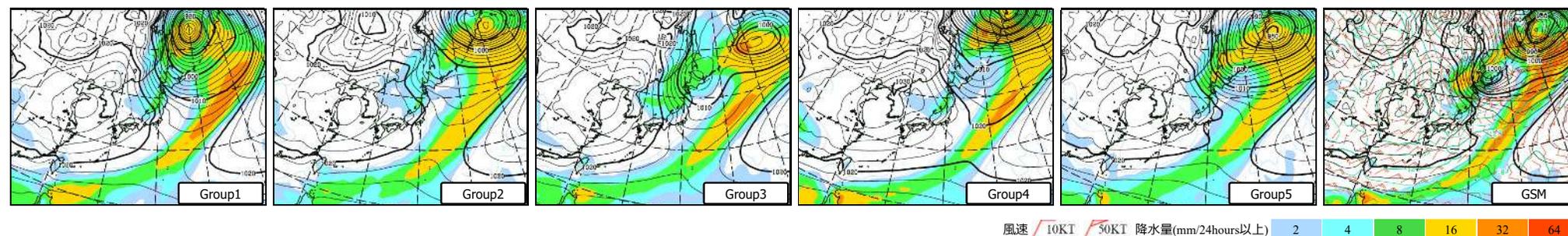


- 北日本と東日本日本海側は、晴れる所もあるが、曇りや雨または雪の降る日が多い。
- 東日本太平洋側と西日本は、30日から11月1日は雲が広がりやすく、31日と1日は雨の降る所がある。2日と3日は晴れまたは曇りとなる。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、30日から1日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆11月2日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、31日に東シナ海に進むトラフがやや深くなった。11月1日から2日に北日本に近づくトラフは東進が早まり、深くなった。地上の気圧配置の予想は、31日の南岸の低気圧が明瞭になり、1日は千島近海で低気圧が発達する予想になった。
- 各モデルともに31日以降の初期値変わりが大きい、変化の傾向は揃っている。2日に日本付近に進むトラフはシャープになり、中国東北区にリッジが進む予想に変わった。
- ENS平均図では予想されていないが、ENSには単独モデルと同様に2日の北海道や東北付近に低気圧を予想するメンバーが4割程度含まれている。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。